

令和5年度 第36回

# 山梨県図書館大会

日時：令和5年11月30日（木） 午前10時～

会場：市川三郷町生涯学習センター



大会テーマ

## 集う場としての図書館

リアル  
コロナ禍を経て、「対面」の意義が問われている。

図書館という場所に足を運んでもらうこと、  
その意義と方策を考える。



**主催** 山梨県公共図書館協会 市川三郷町 市川三郷町教育委員会

**後援** 山梨県教育委員会 公益社団法人日本図書館協会  
山梨県公民館連絡協議会 山梨県学校図書館教育研究会  
山梨県高等学校教育研究会学校図書館部会

**参加者** 公共図書館、公民館図書室、学校図書館、大学・短期大学図書館、  
文庫、教育委員会等関係者、図書館利用者、NPO、図書館ボランティア、  
読書ボランティア、図書館に関心のある方

## 〔日程〕

9:30 10:00 10:30

12:00 13:00 13:30

15:40 15:50 16:00

受付	開会式	記念講演	昼食	受付	分科会	閉会式
----	-----	------	----	----	-----	-----

## 大会次第

〔開会式〕 10:00～10:30 〈会場：多目的ホール（2階）〉

はじめのことば

主催者あいさつ

来賓祝辞

読書・図書館関係表彰伝達披露

日程説明



〔記念講演〕 10:30～12:00 〈会場：多目的ホール（2階）〉

### 「絵本と鳥の巣のふしぎ—鳥の巣が教えてくれること」

講師 鈴木 まもる 氏（画家、絵本作家、鳥の巣研究家）



#### 〈プロフィール〉

1952年、東京生まれ。東京藝術大学美術学部工芸科中退。  
1980年、絵本『ぼくの大きな木』（鶴見正夫／文 偕成社）で  
絵本作家としてデビュー。1986年に静岡県伊豆に転居。鳥の  
巣の造形的魅力にとりつかれ、独学で巣の研究と収集を始める。  
1998年から全国各地で鳥の巣と絵画の展覧会、講演会を開催。  
2006年『ぼくの鳥の巣絵日記』（偕成社）で講談社出版文化賞  
絵本賞を受賞するなど数々の受賞作がある。絵本・童話のイラ  
スト 200冊以上を手がけている。



#### 【主な著書】

『せんろはつづく』シリーズ（金の星社 2003年～）  
『みずとはなんじゃ？』かこさとし／作（小峰書店 2018年）  
『身近な鳥のすごい巣』（イースト・プレス 2023年）他多数。

お願い（記念講演） 録画・録音・撮影は禁止とさせていただきます。

〔分科会〕 13:30～15:40

第1分科会

〈会場：多目的ホール（2階）〉

### 「“場”としての図書館の可能性を考える」

事例発表① 丸山 高弘 氏（山中湖情報創造館

指定管理者統括責任者）

事例発表② 松田 彰 氏（神奈川県大和市立図書館館長

／日本図書館協会認定司書 第1196号）

課題提起・講義 河本 稔馨 氏

（山梨英和大学人間文化学部助教）

ディスカッション（登壇者3名による）

コロナ禍により図書館は臨時休館し、その後も来館者が減少したことで、オンライン等での新たな活動が注目されてきた。しかしアフターコロナの時代においては、「あえて図書館に集まることの意味」についても考えることが必要ではないだろうか。県内外の先進的な取り組みを知ることで、新たに図書館に求められる役割など、図書館という場について再定義する契機としたい。



第2分科会

〈会場：研修室（2階）〉

### 「図書館に来てみない？ —児童・生徒へのアプローチ—」

講師 青柳 啓子 氏（甲州市立勝沼図書館司書）

講師 大江 輝行 氏（（一社）日本子どもの本研究会研究部会  
「YAA！」共同代表、元・自由の森学園  
中学校高等学校図書館司書）



コロナ禍による様々な制限は緩和・撤廃されたが、電子書籍やオンライン小説が普及し、読書以外の様々な趣味や娯楽も増えている中、児童・生徒に図書館へ足を運んでもらうためには、大人とは異なるアプローチが必要である。これらの年代に向けて県内外では様々な取り組みが行われており、2つの活動紹介により、今後の児童サービス、YAサービスへの参考としたい。

〔閉会式〕 15:50～16:00 〈会場：多目的ホール（2階）〉

